



環境負荷の低減に役立つ 「ICTソリューション」を活用し 地球環境の保護に貢献していきます。

西日本電信電話株式会社
代表取締役社長

大竹 伸一

NTTグループでは、「NTTグループ地球環境憲章」のもと、2010年度までに達成すべき目標を自主行動計画目標として設定し、地球環境保護活動に取り組んできました。2010年度には、それらの目標がすべて達成見込みとなったこと、また、昨年10月に「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が開催されたことにより、「生物多様性の保全」に関する社会的な重要度が高まってきたこと等を踏まえ、昨年11月、NTTグループ地球環境憲章に生物多様性の保全に関する条文を追加するとともに、2020年度に向けた取り組み方針をNTTグループ環境ビジョン「THE GREEN VISION 2020」として制定しました。

このビジョンは、「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「生物多様性の保全」の3つを未来にわたって取り組む環境テーマとしてとらえて活動していくもので、NTT西日本グループもNTTグループの一員として、このビジョンに基づき地球環境保護活動に取り組んでいます。「循環型社会の形成」に向けては、ペーパーレス会議の推進やリユース・リサイクルの推進等を図り、紙資源や廃棄物の削減に取り組んでおります。また、「生物多様性の保全」に向けては、植樹・植栽活動等の取り組みを実施しております。特に「低炭素社会の実現」に向けては、お客様に通信サービスを提供するために多くの電力を消費している現状を踏まえると、より一層“電力使用量の削減”に力を入れていかなければならないと考えています。

今年は3月に東日本大震災が発生したこともあり、NTT西日本グループでは、新たに節電に関する基本方針を制定し、各オフィスにおいて昨年度比20%の電力使用量削減に取り組んでいます。しかし節電というのは、あくまで電力使用量の削減に向けた一手段に過ぎません。NTT西日本グループでは、以前からトータルパワー改革（TPR）運動をはじめ、「グリーン調達ガイドライン」に基づき、環境に配慮した消費電力の少ない製品を購入する等、電力使用量の削減に向けた取り組みを推進してきました。今後それらの社内的な取り組みを継続していくことはもちろんですが、お客様への電力使用量削減のご提案についても、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

昨年度、NTT西日本グループは従来のエコオフィスの取り組みを発展させ、オフィスにおける省エネルギー・省資源化の取り組みに加えて、「業務の効率化」、「セキュリティの向上」、「BCP対策」等、オフィス環境における様々な課題を解決する各種ICTソリューションや、社員同士の多様なコミュニケーションを可能とするオフィスデザインを導入したモデルオフィスを、大阪・名古屋・福岡の3カ所に開設しました。これらのモデルオフィスでは、お客様に実際のオフィス環境を“見て・触れて・体感”いただくことができます。我々は情報通信企業として、これからも環境負荷の低減に役立つ様々なICTソリューションを活用し、新しいワークスタイルやライフスタイルをご提案していくことで、皆様と一緒に地球環境の保護に貢献していくことをお約束します。



NTT 西日本グループ 環境報告書2011について



NTT西日本グループでは、環境に配慮し持続可能な社会を実現することが企業の社会的責任であると考え、環境保護活動に取り組むとともに、その活動内容を皆様にご報告するため、2000年度より環境報告書を発行しています。

またCSRの取り組みについても、CSR報告書として2005年度より発行しています。

ぜひ、ご一読いただき、忌憚のないご意見・ご感想を、下記メールアドレスまでお寄せいただきたいと思います。

CSR報告書2011ホームページ <http://www.ntt-west.co.jp/csr/2011/>

CSRの3つの柱



地球環境保護の推進

事業と環境のかかわり

環境経営の考え方

地球環境保護の取り組み

環境報告書2011ホームページ <http://www.ntt-west.co.jp/kankyo/report/2011/>



参考にしたガイドライン

■環境省「環境報告ガイドライン2007年版」

対象範囲

■NTT西日本グループ43社及びNTTビジネスアソシエ西日本を対象としています。

※弊社組織図 各支店 <http://www.ntt-west.co.jp/corporate/branch/>
グループ会社 <http://www.ntt-west.co.jp/corporate/group/>

対象期間

■2010年4月～2011年3月までの実績を基に作成しています。

【お問い合わせ先】

NTT西日本 技術革新部 環境経営推進室 〒540-8511 大阪市中央区馬場町3-15

E-mail kankyo@west.ntt.co.jp



特集1 | NTTグループ環境ビジョン「THE GREEN VISION 2020」

NTTグループでは人類と地球が調和し、社会の持続可能な発展を実現するために、2020年度に向けた新たな取り組み方針をNTTグループ環境貢献ビジョン「THE GREEN VISION2020」として策定（2010年11月）しました。（図1）

NTTグループ環境貢献ビジョン「THE GREEN VISION2020」では、「低炭素社会の実現」、「循環型社会の形成」、「生物多様性の保全」を未来にわたって取り組むべき3つの環境テーマとして位置付けています。

3つの環境テーマ

1. 低炭素社会の実現

地球温暖化を防止する為、自らの事業活動にともなうCO₂排出量を削減するとともに、ICTサービスを普及拡大させることで、社会全体のCO₂削減に貢献し、低炭素社会の実現をめざします。

2. 循環型社会の形成

限られた資源を有効利用する為、自らの事業活動から排出される全ての廃棄物と、紙使用量を削減することで、資源循環型社会の形成をめざします。

3. 生物多様性の保全

生物多様性の保全に貢献する為、新たに策定した2つの取り組みの考え方に基づき、これまで進めてきた取り組みの改善と更なる発展をさせていきます。



図1

3つの環境テーマの達成に向けては、「Green of ICT」、「Green by ICT」、「Green with Team NTT」という3つのアクションにより、NTT西日本においても取り組んでいます。

「環境グランドデザイン」（新たな自主行動計画目標）

NTT 西日本グループでは、低炭素化社会の実現と、循環型社会の形成に向けて、特に電力削減量目標と紙使用量削減目標ならびに廃棄物最終処分率目標を「環境グランドデザイン」として策定しました。

で終了となったことを踏まえ、この環境グランドデザインを新たな自主行動計画目標として位置づけ、取り組みを強化していきます。

NTT 西日本グループでは、自主行動計画目標が 2010 年度

従来の自主行動計画目標の 2010 年度結果については下記の通りです。

従来の自主行動計画目標

対策項目	自主行動計画目標※(2010年目標値)	取り組み項目	結果
温暖化防止	CO ₂ 総排出量 2010年以降、2000年度基準として契約者数原単位で15%以上削減する。	・電力使用量によるCO ₂ 排出量の節減 ・社用車からのCO ₂ 排出量の抑制 ・ガス・燃料消費によるCO ₂ 排出量の節減	契約者数原単位は18.9%となり目標を達成しました。
廃棄物削減	産業廃棄物の最終総廃棄量 1998年レベルの50%以下にする。 (3.1万t以下)	・使用済み通信設備から発生する廃棄物の削減とリサイクルの推進 ・土木工事から発生する廃棄物の削減とリサイクルの推進 ・建築関連工事から発生する廃棄物の削減とリサイクルの推進 ・オフィス内廃棄物の削減とリサイクルの推進	最終総廃棄量は0.6万tとなり目標を達成しました。

※ 本自主行動計画目標は環境保護技術の向上、法律、国際条約等に合わせ、適宜見直す。



新たな自主行動計画目標である環境グランドデザインの2020年度目標については下記の通りです。

環境グランドデザイン（新たな自主行動計画目標）

温暖化対策

2008年度と比較し、2020年度には総CO₂排出量を40%削減^{※1}

(参考)

2008年度のCO₂排出量は91万t^{※2}

紙資源削減

2008年度と比較し、2020年度には総紙使用量を40%以上削減

(参考)

2008年度の総紙使用量は3.99万t

2008年度と比較し、2015年度には一人あたりの事務用紙使用量を50%以上削減。

(参考)

2008年度の一人あたりの事務用紙使用量は、0.99万枚

廃棄物削減

2020年度には全廃棄物合計の最終処分率を1.0%（ゼロエミッション^{※3}）

(参考)

2008年度最終処分率は2.1%

撤去した通信設備廃棄物については、最終処分率0.1%を維持

※1 電気事業連合会が東日本大震災前に公表した2020年度目標の排出係数0.33kg/kWhを用いて算出しています。今後、東日本大震災の影響等により排出係数の変更がある場合は、目標値を見直す場合があります。

※2 2008年度の実績については、電気事業連合会が公表している排出係数0.44kg/kWhを用いて算出しています。

※3 国連大学が提唱した構想で、産業から排出される全ての廃棄物や副産物が他の産業の資源として活用され、全体として廃棄物を生み出さない生産をめざそうとするもの。NTT西日本グループでは、最終処分率1.0%以下をゼロエミッションと定義。

環境グランドデザインで掲げた目標を達成するために様々な取り組みを実施しています。

電力使用量削減

NTT西日本グループでは、温室効果ガス排出量に影響を与える電力使用量削減に向けて、下記の5本柱の取り組みを推進しています。

レガシー系設備等のスリム化

旧型交換機から新型交換機への更改時における省エネ化を推進する。通信機械室における空調の最適化を実施する。

IP系装置の省エネ開発

省エネタイプのIP系装置を開発し、導入を推進する。

空調更改・効率化開発

現在稼働中の老朽空調の更改及び、室温管理の徹底による空調効率化運転を実施する。

エコオフィス推進

エアコン温度の適正化、照明照度の適正化、不要照明の間引き等オフィス内における節電の取り組みを推進する。

新技術の採用

太陽電池・燃料電池等の再生可能エネルギー等の新技術を活用する。

紙使用量削減

NTT西日本グループが使用する紙には、事務用紙、請求書、電報、電話帳があります。

特に電話帳による紙の使用比率は大きく、電話帳の回収徹底や、古紙配合率向上等の紙削減に向けた取り組みを行っています。(P39~42)

廃棄物削減

NTT西日本グループが排出する産業廃棄物には、不要となったパソコンや什器類のオフィス廃棄物、通信ビルや事務所等の建物撤去に伴う建築廃棄物、管路やとう道の工事に伴う土木工事廃棄物、通信ケーブルや交換機撤去に伴う通信設備廃棄物があります。最終処分率^{※4}の改善に向けた取り組みを行っています。(P26~P38)

※4 最終処分率：最終処分量／総排出量で算出され、最終的に埋立処理された比率を表す。



特集2 | 生物多様性保全の取り組み

NTT西日本グループは、環境問題への取り組み方針を「NTT西日本グループ地球環境憲章」、環境問題への具体的な取り組みを推進する為の指針を「NTT西日本グループ環境指針」として定め、社会支援等による貢献について、社員やその家族、退職者等が中心となり幅広く活動に取り組んできました。2010年度には生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が愛知県名古屋市で開催される等、将来に渡って人類が繁栄していく為には、生物や自然から受ける恵みを大切に守っていく必要があるとして、活発に議論が行われました。

そこでNTT西日本グループとしても、更に自然保護活動を強化するとともに、生物多様性の保全に貢献していきたいと考え、「NTT西日本グループ植樹プロジェクト」と「NTT西日本グループ葵プロジェクト」を開始しました。

NTT西日本グループ植樹プロジェクト

本プロジェクトは、従来の紙の請求書からMyビリング（Web請求書）へ切り替えていただいたお客様1万契約ごとに、10本の木を大阪府堺市にある産業廃棄物埋め立て処分場に植樹する活動です。第1回目の植樹会を2010年1月30日に開催し、59名のボランティアによって、330本の苗木（ネズミモチ等）を植樹しました。今後は、これらの取り組みを更にPRし、環境問題に関心のあるお客様のご協力をいただきながら、更なる紙使用量削減と植林によるCO₂削減を図っていきます。

加えて、通信ケーブル等の大量の産業廃棄物を排出している産業廃棄物排出事業者として、産業廃棄物埋め立て処分場の環境保全にも貢献していきます。



NTT西日本グループ葵プロジェクト

本プロジェクトは、上賀茂神社（京都市）境内に自生していた葵が、乱獲等の影響により、ほとんどなくなってしまったことから、NTT西日本グループに勤務する社員や、その家族が葵の里親となり（2011年3月時点で約1,000名）、職場や自宅において葵の苗木を生育するとともに、その育てた葵を上賀茂神社境内に植栽する活動です。里親によって育てられた葵は、毎年4月ごろに株分けをし、上賀茂神社境内に植栽を行います。2011年4月17日には、1回目となる植栽会を上賀茂神社にて開催し、NTT西日本グループ社員と、その家族ら20名によって、330本の苗木を植栽しました。なお、2011年度については、取り組みの初年度であり、苗木が成長していないことから、新たな苗木を用意し、上賀茂神社境内に植栽を行いました。





特集3 モデルオフィスの開設

NTT西日本グループは従来のエコオフィスの取り組みを発展させ、オフィスにおける省エネルギー・省資源化の取り組みに加えて、「業務の効率化」、「セキュリティの向上」、「BCP対策※」等、オフィス環境における様々な課題を解決する各種ICTソリューションや、社員同士の多様なコミュニケーションを可能とするオフィスデザインを導入したモデルオフィスを、大阪・名古屋・福岡の3カ所に開設しました。

モデルオフィスでは、ICT時代に相応しい新たなワークスタイルを提案する場として、NTT西日本の大阪、名古屋、福岡の3拠点の実際のオフィス環境に最新のICTソリューションや情報端末を導入するとともに、社員同士のコミュニケーション促進等に役立つオフィスデザインを取り入れ、各拠点の業務特性や規模等に適したオフィスを構築しています。

また、これらのモデルオフィスでは、お客様に実際のオフィス環境を“見て・触れて・体感”していただくことができます。

※ BCP対策：震災等の緊急時においても企業活動を継続させる為の対策です。



モデルオフィスのコンセプト

モデルオフィスは、「モデルオフィス」と「展示コーナー」で構成されています。

以下、「モデルオフィス」と「展示コーナー」について紹介しています。

モデルオフィス

「モデルオフィス」では、拠点の業務特性や規模等に適したオフィスを構築しています。

1. ICT設備を活用した執務スペース

シンクライアント※1、FMC※2を活用したフリーアドレス対応の作業スペースを実現しています。



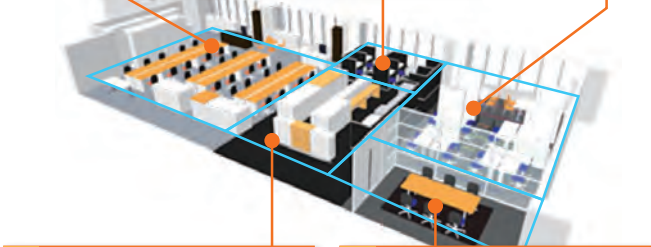
2. 出張者用サテライト、集中ワークスペース

遠隔地からの出張者用のスポットオフィスや、自席を離れての集中作業スペースを構築しています。



3. ワークスタイルをサポートする共有スペース

複合機やロッカー、書籍類を集約し、かつフロア中央部に配置することで多様な社員の偶発的コミュニケーションを拡大しています。



4. ワークシーンに合わせて変化するコミュニティ・ミーティングスペース

人数やプレゼンテーションのシーンを限定しないフレキシビリティをもったワークスペースを、ICTと什器類の組み合わせで実現しています。また、壁面をホワイトボードにすることで、スペースの効率的活用も実現しています。



5. 高機能テレビ会議が可能なプレゼンルーム

社員のみ利用、お客様の応接等幅広く利用可能な空間を構築しています。

※1 シンクライアント：社員が使う端末に最低限の機能しか持たせずに、サーバー側でアプリケーションやファイル等を管理するシステムの総称です。
※2 FMC：Fixed-Mobile Convergence の頭文字であり、固定電話と携帯電話の機能を融合させた名称です。



展示コーナー

お客様に実際のオフィス環境を“見て・触れて・体感”いただくとともに、業務の生産性や創造性の向上に役立つICTソリューションや情報機器を展示しています。

1. 省エネルギーに役立つソリューション

電力使用状況の見える化による節電意識の向上、ペーパーレス会議やID認証によるミスプリント防止等

・エネルギー見える化ソリューション ・複合機（プリンター、ファクス） 等

3. セキュリティー向上に役立つソリューション

仮想デスクトップにより情報漏洩防止に役立つシンクライアントシステムシステムの活用

・シンクライアントシステム ・ICカード認証による複合機 等

2. 業務効率化映像等によるコミュニケーション・情報共有の促進に役立つソリューション

・多地点接続テレビ会議 ・高機能ビジネスフォン
・eラーニングシステム 等

4. BCP対策に役立つソリューション

NTT西日本が提供するデータセンターやクラウドサービスの活用

・データセンター ・クラウドサービス ・リモートアクセスソリューション
・社員安否確認システム 等

